

Voice

参加者・スタッフ・自治体職員の声

参加者の声



みなさんと年齢や肩書き、障がいを感じずフラットにおつきあいできる雰囲気がすばらしいと思いました。一緒に時間を過ごすうちに、人は仲良くなれるんだなあと思います。



スタッフの声

握手、手を握る、ハイタッチ、スキンシップ—そこから伝わるその人のあたたかさ、ぬくもり、強い思い、熱い気持ち、感謝の思いが伝わります。

自治体職員の声



自治体で担当になった方には、ぜひ現場に足を運んで自分の目で見て体験してもらえたらと思います。現場に行かなければ見えないこと、わからないことがたくさんあります。

スタッフの声

参加者のみなさんにはそれぞれの目標や目当てがあると、思います。一人ひとり目当てはちがっても、楽しさを共有できる仲間がいることに集いの良さがあると思います。

文部科学省委託事業

「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業」について

文部科学省では、「スポーツは、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない」とするスポーツ基本法の規定に基づいて障害者スポーツの推進に取り組んでおります。

その取組の一方策として、地域において健常者と障害者が一体となってスポーツ・レクリエーション活動が円滑に行えるよう、平成24年度 から3年間にわたり全国33地域において各種マニュアル、用具等の開発や実践研究を重ね、このたび成果物が完成しました。

その成果を気軽に使えるものとしてまとめた右の「ガイドブック」及び「スタッフのてびき」を参考に、各地域において健常者と障害者が一緒に楽しめるスポーツ・レクリエーション活動に取り組んでいただきたいと思います。その活動が、2020年東京パラリンピック競技大会の成功にむけての原動力になるものと期待しております。



障がいのある人となない人のスポーツ・レクリエーション交流事業では、つぎの2つの小冊子を製作し配布しております。



事業の進め方がわかる
「ガイドブック」



運営に携わるスタッフの勉強会に役立つ
「スタッフのてびき」

参考ウェブサイト

「スポーツ・レクリエーションの新たな可能性」



<http://universal.recreation.or.jp>

障がいのある人となない人のスポーツ・レクリエーション交流事業実施にあたってのサポートやご相談にも応じます。

ご希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。

連絡先

公益財団法人日本レクリエーション協会

〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館 6F
電話：03-3265-1893
<http://www.recreation.or.jp>

平成26年度文部科学省委託事業
健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業



Let's Enjoy Sports & Recreation for everyone!



障がいのある人となない人の

スポーツ・レクリエーション 交流事業への招待



平成27年3月 日本レクリエーション協会

「障害のある人となない人のスポーツ・レクリエーション交流事業」とは？

「障害のある人となない人のスポーツ・レクリエーション交流事業」とは、
障がいのある人となない人が、スポーツ・レクリエーション活動を共に楽しみ、
喜びを分かち合い、交流を深める継続的な機会をつくり、
日常的に地域においてスポーツ・レクリエーション活動を楽しむ
仲間づくりへと発展させていくためのものです。

★交流事業をやってみよう

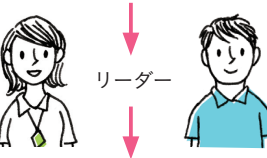
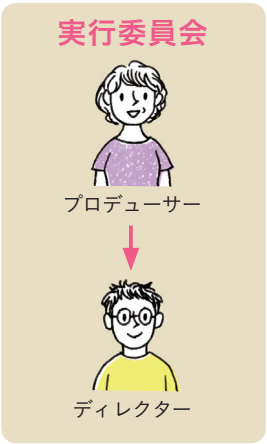
1 実行委員会の結成

どのような参加者を募り、
どんなスポーツ・レクリエーション活動を行うかなど
を話し合うための実行委員会を結成します。
関係する行政の担当者で協力し、
障がい福祉関係者、スポーツ関係者、
レクリエーション協会、学校、自治会、ボランティア
などの幅広い関係者に参加してもらうことが重要です。

スポーツ・レクリエーション交流事業にかかわる人たち



↓ 支援・協力



2 スタッフの構成

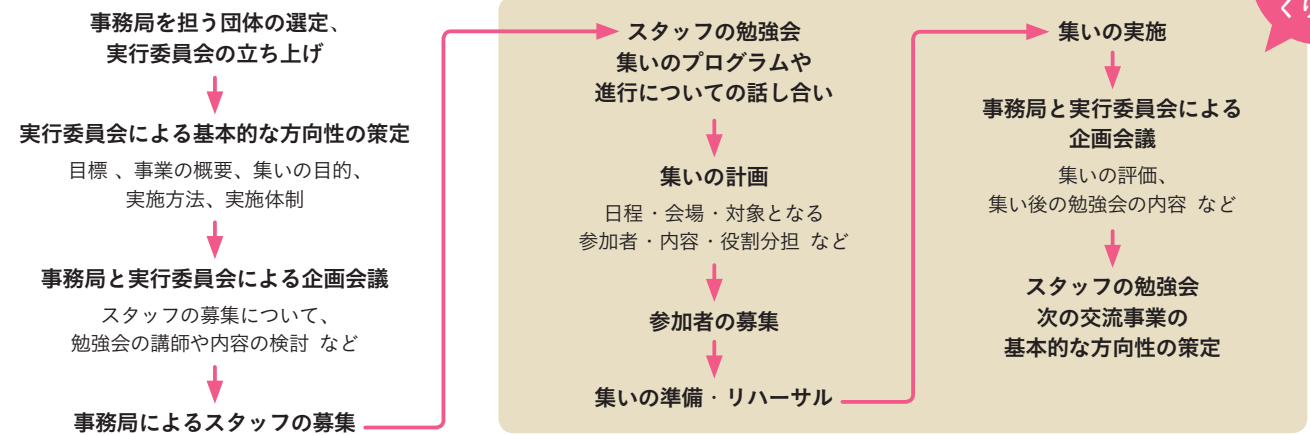
集い（イベント）を現場で動かすスタッフは、
「プロデューサー」「ディレクター」「リーダー」
「当日ボランティア」などで構成します。
参加者一人ひとりが「楽しい」と思える活動を準備し
提供するのが、スタッフの大切な役割です。
参加者同士が交流したり、
助け合ったりすることができるように支えます。

3 スポ・レク交流事業の企画・運営

地域の実態や想定される参加者の特性を把握しながら、
スポーツ・レクリエーション活動の種目や
実施方法などについて情報を収集するところから始めます。
シミュレーションを重ねながら、集い（イベント）を実施し、
参加者とともに振り返りを行います。
活動内容の修正を加えながら、次の集いを企画します。
このようなステップを踏みながら進めていきます。



スポ・レク交流事業のタイムテーブル例



この流れを
複数回
くり返す

交流事業の展開はステップバイステップで

交流事業の最初の段階では、参加者＝お客さんという構図になってしまいがちですが、
事業の終わりには、参加者＝主人公、スタッフ＝黒子という段階にまで到達していきます。

